

兵庫県産蛾類の概観について

—兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって—

宇野宏樹¹⁾

1. はじめに

筆者は、兵庫県産蛾類分布記録データベース（別名：兵庫県産蛾類データベース）（宇野ほか，2024b）を作成するにあたって、兵庫県産蛾類の分布をまとめる機会があった。その際、兵庫県産の蛾類の分布状況の様子が浮かび上がってきたため、あくまで概観であるが本報告にまとめておきたい。

2. 兵庫県の蛾類の種数

兵庫県産の蛾類の科ごと、および種の総数は表1のようになった。なお、種が同定されていない記録については、カウントから除外している。

地域ごとの種数についても述べておきたい。神戸・阪神・播磨・丹波・但馬・淡路のそれぞれの地域の蛾類

表1. 兵庫県の蛾類の種数および日本産種の種数とその比較。

科	兵庫県産の種数	日本産の種数	兵庫県産の日本産に対して占める種数の割合
1 コバネガ科	2種	23種	8. 70%
2 スイコバネガ科	0種	11種	0. 00%
3 コウモリガ科	3種	9種	33. 33%
4 モグリチビガ科	4種	91種	4. 40%
5 ヒラタモグリガ科	1種	8種	12. 50%
6 ツヤコガ科	0種	24種	0. 00%
7 ヒゲナガガ科	16種	36種	44. 44%
8 ホソヒゲマグリガ科	0種	8種	0. 00%
9 マグリガ科	1種	17種	5. 88%
10 ムモンハモグリガ科	1種	14種	7. 14%
11 和名未定（ヒメヒロズコガ類）	0種	4種	0. 00%
12 和名未定（スジモンヒロズコガ類）	0種	2種	0. 00%
13 ヒロズコガ科	20種	91種	21. 98%
14 ミノガ科	8種	43種	18. 60%
15 ヒカリバコガ科	0種	4種	0. 00%
16 チビガ科	1種	25種	4. 00%
17 ホソガ科	16種	260種	6. 15%
18 スガ科	23種	80種	28. 75%
19 ニセスガ科	0種	13種	0. 00%
20 クチブサガ科	7種	30種	23. 33%
21 コナガ科	3種	8種	37. 50%
22 カイハネガ科	0種	1種	0. 00%
23 アトヒゲコガ科	3種	16種	18. 75%
24 ホソハマキモドキガ科	7種	27種	25. 93%
25 マイコガ科	0種	2種	0. 00%
26 ヒルガオハモグリガ科	0種	2種	0. 00%
27 ハモグリガ科	2種	22種	9. 09%
28 スヒロキバガ科	0種	9種	0. 00%
29 ヒラタマルハキバガ科	12種	60種	20. 00%
30 クサモグリガ科	0種	46種	0. 00%
31 オビマルハキバガ科	2種	4種	50. 00%
32 ヒロバキバガ科	1種	2種	50. 00%
33 キヌバコガ科	2種	4種	50. 00%
34 メスコバネキバガ科	3種	4種	75. 00%

表1. 続き。

科	兵庫県産の種数	日本産の種数	兵庫県産の日本産に対して占める種数の割合
35 モンホソキバガ科	0種	1種	0. 00%
36 マルハキバガ科	22種	56種	39. 29%
37 ヒゲナガキバガ科	16種	28種	57. 14%
38 ホソキバガ科	1種	9種	11. 11%
39 ニセマイコガ科	16種	59種	27. 12%
40 ツツミノガ科	4種	100種	4. 00%
41 エダモグリガ科	1種	6種	16. 67%
42 アカバナキバガ科	0種	4種	0. 00%
43 ネマルハキバガ科	6種	12種	50. 00%
44 ミツボシキバガ科	5種	9種	55. 56%
45 エグリキバガ科	1種	2種	50. 00%
46 カザリバガ科	20種	82種	24. 39%
47 コブカザリバガ科	1種	5種	20. 00%
48 キバガ科	60種	313種	19. 17%
49 ネムスガ科	1種	1種	100. 00%
50 セミヤドリガ科	2種	2種	100. 00%
51 イラガ科	17種	41種	41. 46%
52 マダラガ科	15種	30種	50. 00%
53 スカシバガ科	17種	51種	33. 33%
54 ヒロハマキモドキガ科	0種	2種	0. 00%
55 ボクトウガ科	3種	8種	37. 50%
56 ハマキガ科	226種	875種	25. 83%
57 ハマキモドキガ科	5種	40種	12. 50%
58 メスハリオガ科	0種	2種	0. 00%
59 ホソマイコガ科	0種	3種	0. 00%
60 科所属不明	0種	2種	0. 00%
61 ササベリガ科	1種	14種	7. 14%
62 ニジュウシトリバガ科	3種	6種	50. 00%
63 トリバガ科	23種	73種	31. 51%
64 ニセハマキガ科	1種	2種	50. 00%
65 マルバシクイガ科	0種	1種	0. 00%
66 シクイガ科	3種	17種	17. 65%
67 セセリモドキガ科	0種	3種	0. 00%
68 マドガ科	10種	28種	35. 71%
69 メイガ科	129種	298種	43. 29%
70 ツトガ科	262種	552種	47. 46%
71 イカリモンガ科	2種	2種	100. 00%
72 カギバガ科	54種	71種	76. 06%
73 アゲハモドキガ科	3種	4種	75. 00%
74 ツバメガ科	10種	28種	35. 71%
75 シャクガ科	523種	896種	58. 37%
76 カレハガ科	15種	27種	55. 56%
77 オビガ科	1種	1種	100. 00%
78 カイコガ科	5種	7種	71. 43%
79 ヤママユガ科	9種	13種	69. 23%
80 イボタガ科	1種	1種	100. 00%
81 スズメガ科	49種	76種	64. 47%
82 シャチホコガ科	97種	126種	76. 98%
83 ドクガ科	39種	55種	70. 91%
84 ヒトリガ科	67種	126種	53. 17%
85 ヒトリモドキガ科	1種	7種	14. 29%
86 アツバモドキガ科	1種	6種	16. 67%
87 コブガ科	55種	114種	48. 25%
88 ヤガ科	748種	1327種	56. 37%
— List-MJ 掲載種数	—	6624種	—
— 近年の日本初記録種・新種	—	約27種	—
— 総数	約2689種	約6651種	約40. 43%

¹⁾ Hiroki UNO 大阪府池田市

の種数は表2のようになった。なお、種類が不明な記録や、採集地が他地域にまたがっている種についてはカウントから除外している。

地域ごとに特有の種の種数についても、表3に掲載しておく。概要については後述する。山地など特徴的な環境がある地域では、種数が多くなっている傾向がある。また、網羅的に調査が行われた地域やマイクロレピの調査が進んでいる地域も、種数が多くなっている傾向がある。もっとも、「付近」とつけた、産地が明確でないデータについては、除外して種数をカウントしているため、以下の数字はあくまで参考程度に考えていただくと幸いである。

これらの表の数値に関しては注意深く調べたつもりだが、もしカウント数にミスがあった場合は、筆者までご教示いただくと幸いである。また、これらは2024年現在のデータであり、今後の調査によって変動する可能性が高いことを記しておきたい。

3. 地域ごとに特有な種について

兵庫県を神戸・阪神・播磨・丹波・但馬・淡路の6つの地域に分けた場合、それぞれに特有な種について本項で述べておきたい。なお、すべての種について言及することは不可能であるため、特に興味深い種を扱った。旧地名で記録されているものは、基本的に現在の地名に変換して扱った。

3-A. 神戸地域に特有な種

神戸地域には六甲山があるほか、いくつかの湿地が存在する。神戸地域に特有な種のなかで、興味深いものを以下に述べておく。神戸地域に特有な種として、キイロエグリヅマエダシャク *Odontopera aurata*・キスジウスキヨトウ *Globia sparganii*・セグロベニトゲアシガ *Atkinsonia ignipicta*・アオギリチビガ *Bucculatrix firmianella* などが特筆される。

キイロエグリヅマエダシャクは摩耶山から得られており、寒地性の種で、本州では山地に生息する種とされている(田中, 1966)が、神戸市から得られているのは興味深い。

キスジウスキヨトウはガマ・ミクリなどを食草とし、湿地環境に生息することが知られている(岸田, 2011b)。本種は神戸市北区甲栄台や摩耶山から得られている(高島, 2002)が、湿地環境を夏季に探せば、県内のほかの地域からも得られるかもしれない。

セグロベニトゲアシガはタケノアブラムシ・ワタアブラムシを食べる肉食性の種として知られ(広渡ほか, 2013)、神戸市では藍那から得られている(徳平ほか, 2010)。本種は神戸版レッドリスト2020ではCランクに指定されているため(神戸市, 2020)、今後も注目し

表2. 地域ごとの蛾類の種数.

地域	蛾の種数
神戸	約 1098 種
阪神	約 1426 種
播磨	約 2066 種
丹波	約 1184 種
但馬	約 1420 種
淡路	約 1244 種

表3. 地域により特有の種の種数.

各地域に特有の種数	蛾の種数
神戸	約 31 種
阪神	約 59 種
播磨	約 253 種
丹波	約 34 種
但馬	約 162 種
淡路	約 79 種

ておく必要がある。

アオギリチビガはチビガ科の中では兵庫県で唯一得られている種である(宇野ほか, 2024b)。本種は、神戸市では諏訪山公園から得られている(山口, 1999)。アオギリを寄主植物とすることが知られる(那須ほか, 2013)。

3-B. 阪神地域に特有な種

阪神地域は、六甲山系の東端が位置する。低地が多いが、湿地も少しある。阪神地域の蛾類は、主に「宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(その1~3・続報その1~9)」などの文献で新家 勝氏によって精力的に調べられている(新家, 1981a; 新家, 1981b; 新家, 1982a; 新家, 1982b; 新家, 1983; 新家, 1984; 新家, 1985; 新家, 1986a; 新家, 1986b, 新家, 1987; 新家, 1988, 新家, 1989)。また、「宝塚の昆虫」シリーズには宝塚市の蛾類の多くの記録が掲載されている(宝塚市, 1992; 宝塚市, 1993; 宝塚市, 1994)。兵庫県産蛾類のうち、阪神地域に特有な種の中で興味深いものを以下に述べておく。阪神地域に特有な種として、セスジヒトリ *Spilarctia howqua*・ウスベニキヨトウ *Mythimna pudorina*・ノヒラキヨトウ *Mythimna obsoleta*・ホソフタオビヒゲナガ *Nemophora trimetrella*・ネグロシマメイガ *Pyralis pictalis* などが挙げられる。なお、本項では、上記の蛾類を「3-B-1. 湿地性と思われる種」「3-B-2. 都市環境に生息する可能性のある種」「3-B-3. その他の種」に分けて扱いたい。

3-B-1. 湿地性と思われる種

ウスベニキヨトウは宝塚市で記録されており(宝塚市, 1993)、寄主植物はテンキグサ・ヤマアワ・ススキ・ヨシ(岸田, 2011b)。本種は低湿地の蛾とされる(愛知県, 2020)。

ノヒラキヨトウは宝塚市の宝塚大橋で記録が確認されている(新家, 1985)が、1984年の記録であり、現在も同じ環境が残っているかは疑問である。なお本種は、湿地との結びつきが強いとされ(高島, 2000b)、ヨーロッパではヨシを寄主植物とすることが知られている(岸田, 2011b)。

3-B-2. 都市環境に生息する可能性のある種

セスジヒトリは宝塚市・尼崎市で生息が確認されている(宇野ほか, 2024b). 兵庫県内における具体的な産地は, 宝塚大橋付近や尼崎市塚口などが挙げられる(新家, 1993; 夏秋, 1997). 岸田(2011b)では, 本種について「1980年代に大阪市と高松市などの都市近郊で生息が確認された. このような生息地で発見されたということで, 国外からの侵入種の可能性が示唆されている」との記述がある.

ネグロシマメイガは宝塚市・西宮市・尼崎市で記録が知られている(宇野ほか, 2024b). 本種の食餌は, 日本では菓子類が知られている(那須ほか, 2013). 本種は宝塚市千種2丁目や尼崎市塚口で記録されている(夏秋, 1997; 宇野, 2024).

3-B-3. その他の種

ホソフタオビヒゲナガは西宮市武田尾溪谷の記録が知られている(シニア自然大学校, 2019)が, よく調査すれば兵庫県の他地域からも記録されると思われる.

3-C. 播磨地域に特有な種

播磨地域は, 高島 昭氏や高橋弘樹氏, 大貝秀雄氏らによって蛾相が網羅的に調べられており, 兵庫県の6つの地域の中で最も記録されている蛾の種数が多い. 彼らによって調べられた相生市の蛾相の文献としては, 「相生市三濃山麓の蛾 1-2」(高島, 1996a; 高島, 1998)や「相生市『羅漢の里』公園で確認された蛾類の記録(1)~(3)」(高橋, 2022c; 高橋, 2023a; 高橋, 2023b), 「兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内1区画における昆虫相」(大貝, 2018)などが挙げられる. 播磨地域にはツゲが自生する特殊環境があるほか, 播磨地域北部には標高の高いエリアもあり, 環境の多様性は大きい. 播磨地方に特有な種として, ベニイカリモンガ *Callidula attenuata*・クロオオモンエダシャク *Microcalicha fumosaria*・キイロトゲエダシャク *Apochima praeacutaria*・トラフツバメエダシャク *Tristrophis veneris*・クロバネフユシャク *Alsophila foedata*・ハラシロモンアオシャク *Jodis albigitata*・ヒメカレハ *Phyllodesma japonica*・スカシカレハ *Amurilla subpurpurea*・サツマスズメ *Theretra clotho*・タツタカモクメシャク *Kamalia tattakana*・ゴマダラシャク *Palaestauropus obliteratus*・イナズマコブガ *Meganola triangulalis*・ウスベニツマキリアツバ *Tamba gensanalis*・セニジモンアツバ *Paragona cleorides*・シーモンアツバ *Sinarella c-album*・ヤクシマヒメキシタバ *Catocala tokui*・ホソバミツモンケンモン *Cymatophoropsis unca*・アミメヒメヨトウ *Iambia transversa*・ショウブオオヨトウ *Helotropha leucostigma*・ハガタウスキヨトウ *Archanara*

resoluta・エチゴハガタヨトウ *Asidemia inexpecta*・エグリキリガ *Teratoglaea pacifica*・タイリクウスイロヨトウ *Anarta trifolii*・ホソアオバヤガ *Actebia praecox*・ニッポンヒロコバネ *Neomicropteryx nipponensis*・ヨツモンキヌバコガ *Scythris sinensis*・オキナワルリチラシ *Eterusia aedeia*・ブドウオオトリバ *Platyptilia ignifera*・アカオビフトメイガ *Lepidogma tripartita*などが特筆される. 本項では扱う蛾の種数が多いため, 上記に挙げた種を「3-C-1. 針葉樹を食樹とする種」「3-C-2. 湿地性・草原性の種」「3-C-3. 暖地性と考えられる種」「3-C-4. 特殊環境に生息する種」「3-C-5. 兵庫県の他地域でも得られる可能性のある種」「3-C-6. 兵庫県の他地域では得られる可能性が低そうな種」「3-C-7. その他の種」に分けて紹介したい.

3-C-1. 針葉樹を食樹とする種

トラフツバメエダシャクは宍粟市・西脇市・佐用町で記録が知られている(宇野ほか, 2024b). 本種の具体的な記録は, 佐用町昆虫館の周辺や, 波賀町上野および, 旧三日月町のあたりなどでも得られており(藤江ほか, 2011; 相坂, 1995; 川副, 1987), 兵庫県では食樹の生えた低山~山地に分布するのかもしれない. なお本種の食樹はコメツガ・モミ・トドマツが知られている(岸田, 2011a).

ゴマダラシャクホコは兵庫県では宍粟市・佐用町で記録されている(宇野ほか, 2024b). 本種の寄主植物はモミが知られている(岸田, 2011b)ことから, 本種はモミの生えている地域に分布が限られている可能性がある. なお, 本種は佐用町昆虫館周辺でも得られており(藤江ほか, 2011), 興味深い.

エグリキリガは市川町・佐用町の記録が知られている(宇野ほか, 2024b). 本種の兵庫県の具体的な産地は, 市川町屋形・旧三日月町であり(高橋, 2020a; 川副, 1987), 注意しておけば兵庫県のほかの地域からも見つかるかもしれない. なお本種の寄主植物は, トドマツの記録が知られている(岸田, 2011b).

3-C-2. 湿地性・草原性の種

ショウブオオヨトウは市川町で記録されている(坪田, 2021). 本種の寄主植物は, テンキグサ・ススキ・ホスガヤ・トウモロコシ・アブラガヤが知られている(岸田, 2011b). 本種は湿地で採集されることが多いとの情報がある(岸田, 2011b). 兵庫県でも, 湿地を中心とした調査を行えば, 播磨地域以外の場所からも本種が記録される可能性は高い.

ハガタウスキヨトウは神河町砥峰高原の記録のみが知られている(八木ほか, 2003). 湿地環境に生息するとされる種である(岸田, 2011b). 本種に関しても, 湿地環境の調査を行えば, 兵庫県内のほかの地域でも見

つかると思われる。

3-C-3. 暖地性と考えられる種

シーモンアツバは上郡町・相生市の記録が知られている（高橋, 2022a）。岸田（2011b）では本種の分布は、本州（紀伊半島）・四国・屋久島とされており、本種は、比較的暖地の蛾と思われる。

3-C-4. 特殊環境に生息する種

ホソバミツモンケンモンは上郡町・佐用町で記録されている（宇野ほか, 2024b）。急峻な崖がある環境で採集されているという（兵庫県, 2023）。本種は兵庫県版レッドリスト 2022 では、「要調査」に指定されており、今後も継続的な調査が必要である。

エチゴハガタヨトウは上郡町（上郡町光都・上郡町金出地）の記録が知られている（高橋, 2022b）。寄主植物はツゲ（岸田, 2011b）。本種はツゲが生える地域の蛾であり、地域の植生を表す種として興味深い。本種は兵庫県からは比較的最近になって記録された。

3-C-5. 兵庫県の他地域でも得られる可能性のある種

ベニイカリモンガは兵庫県では佐用町で記録されている（植田, 2022）。本種は大阪府枚方市でも記録がある（植田, 2022）ため、空白となっている兵庫県南部からも今後見つかる可能性がある。

クロバネフユシャクは兵庫県では相生市・福崎町で比較的最近の記録が知られている（高橋, 2021；坪田, 2018）。寄主植物はクヌギ・コナラ（岸田, 2011a）。本種については、平地から低山地をよく調査すれば、兵庫県内のほかの地域からも記録されると思われる。

サツマスズメはたつの市・上郡町で記録されており（高橋, 2022b）、いずれも近年の記録である。寄主植物はノブドウ・エビヅル（岸田, 2011a）。本種の兵庫県の分布が播磨地域に限定されている原因は不明であり、今後兵庫県内外のほかの地域からも記録される可能性はあると思われる。

スカシカレハは宍粟市のやや標高の高い地域（坂の谷）で記録がある（高島, 2003）。本種は高標高地や寒冷地で多く採集されるとされ（岸田, 2011a）、兵庫県の記録は分布上興味深い。今後氷ノ山などの周辺で得られる可能性もあるため、「兵庫県の他地域でも得られる可能性のある種」に含めておく。

イナズマコブガは相生市のみから記録されている（宇野ほか, 2024b）。本種はスダジイから発見されたとの情報がある（岸田, 2011b）。大阪府からも見つかっており（大阪昆虫同好会, 2023）、よく探せば、兵庫県の他地域からも記録されるものと思われる。

ウスベニツマキリアツバは相生市・上郡町から記録

されている（大貝, 2018；高橋, 2022c）。本種は暖地に産するが少ないとされる（岸田, 2011b）。兵庫県内では播磨地域に分布が限られる原因はよくわからないため、今後兵庫県の他地域からも記録される可能性がある。

セニジモンアツバはたつの市・上郡町・宍粟市・相生市から記録があり（高橋, 2022b; 高橋, 2022c）、「西播磨地域では6月から10月にかけてライトトラップにしばしば飛来し、その頻度はウスグロセニジモンアツバよりも多い」とされている（高橋, 2022b）。本種が今のところ播磨地域に分布が限定される原因は不明であるが、本種は小さいので他地域に生息していても見落とされている可能性もあると思われる。

ヤクシマヒメキシタバは市川町での記録が知られている（宇野ほか, 2024b）。注意しておけば、本種は兵庫県の他地域からも記録される可能性はあると思われる、今後の調査が待たれる。

タイリクウスイロヨトウは市川町の記録が知られている（坪田, 2021）。寄主植物はタマネギ・ミチヤナギ・イワナズナなど（岸田, 2011b）。北方系の蛾とされ（坪田, 2021）、注意して探せば兵庫県北部でも見つかるかもしれない。

ホソアオバヤガは宍粟市（波賀町引原）の記録が知られている（高島, 2000a）。寄主植物はハマエンドウ（岸田, 2011b）。本種は平地でも山地でも得られる（岸田, 2011b）というが、兵庫県の詳しい分布状況はよくわかっていない。

ニッポンヒロコバネは宍粟市の記録が知られている（阪上, 2015）。寄主植物はジャゴケ（広渡ほか, 2013）。阪上（2015）では「ジャゴケは氷ノ山などの他の山地の林道脇にも生育しており、コバネガ類は県内の他の場所からも得られると思われる。今後のさらなる記録が期待される。」との記述がある。

ヨツモンキヌバコガは上郡町の記録が知られている（大貝, 2018）。寄主植物はアカザ・シロザ（広渡ほか, 2013）。本種は大阪府高槻市でも見つかっており（シニア自然大学校, 2012）、よく調査すれば兵庫県のほかの地域からも見つかる可能性はあると思われる。

3-C-6. 兵庫県の他地域では得られる可能性が低そうな種

ヒメカレハは上郡町安室ダム周辺で記録があり、意外にも標高はやや低い場所である（高島, 1997）。寄主植物はオオヤマザクラ・セイヨウハコヤナギ（岸田, 2011a）。兵庫県産の本種はかなり珍しいと思われる。

3-C-7. その他の種

クロオオモンエダシャクは宍粟市の引原ダム周辺などで記録があることから（高島, 1995）、やや標高の高い地域に生息する種かもしれない。マサキ・コマユミ・

ツリバナ・ツルマサキを寄主植物とすることが知られている(岸田, 2011a).

キイロトゲエダシヤクは姫路市山田町の標高 100m 以下と思われる地点で比較的最近の記録がある(高橋, 2020b). 本種は広食性であることが知られる(岸田, 2011a).

ハラシロモンアオシヤクは 2023 年に新種記載された種で, 相生市「羅漢の里」公園で記録がある(高橋, 2023b). 本種については記載されたばかりで比較的情報が少ないので, 今後の調査が待たれる.

タツタカモクメシヤチホコは宍粟市・上郡町で記録されている. 具体的な産地は, 宍粟市波賀町・上郡町金出地などで(高橋, 2022b), 比較的標高の低い地域からも記録されている. 寄主植物はイイギリ(岸田, 2011b).

アミメヒメヨトウは相生市「羅漢の里」公園から記録されている(高橋, 2023b). 「平地で採集されるが, 少ない」とされる(岸田, 2011b). 兵庫県内で播磨地域に分布が限られる原因はよくわからない. 地味な色彩の種のため, 他地域に生息していても見落とされているのかもしれない.

オキナワリリチラシは福崎町・姫路市で記録がある(高島, 2001b; 高橋 2019). 寄主植物はヒサカキ・ヤブツバキ・チャノキ・イジュ・ミミズバイ・ノボタン類(広渡ほか, 2013). 高島(2001b) および高橋(2019)では, 兵庫県で見つかった本種が偶産蛾であるかどうかは断定されていない.

ブドウオオトリバは上郡町の田園地帯に囲まれた住宅団地内で見ついている(大貝, 2018). 寄主植物はブドウ・ヤマブドウ(那須ほか, 2013).

アカオビフトメイガは上郡町・相生市で記録がある. 少ない種のようなのである.

3-D. 丹波地域に特有な種

丹波地域には, 里山環境などが存在する. 以下に丹波地域に固有な種の中で, 興味深い種を挙げておきたい. 本地域の蛾類は, 主に山本義丸氏によって「兵庫県氷上郡昆虫目録」および「兵庫県氷上郡地方の蛾類 1~3」などで多数の種が記録されている(山本, 1958; 山本, 1996; 山本, 1997a; 山本, 1997b). 丹波地方に特有な種としては, ウススジオオシロヒメシヤク *Problepsis plagiata*・マルバネキシタケンモン *Trisuloides rotundipennis*・ギンモンマイコモドキ *Pancalia isschikii* が特筆される.

ウススジオオシロヒメシヤクは丹波市から記録されている(宇野ほか, 2024b). なお, この記録は, 山本(1997a)において「コヒトツメオオシロヒメシヤク」の名前で妙高山から記録されているものである. 寄主植

物はイボタノキ(岸田, 2011a). 兵庫県内の分布が丹波地域に限られる理由は不明である.

マルバネキシタケンモンは丹波市から記録されている(宇野ほか, 2024b). 寄主植物はイチイガシ(岸田, 2011b). イチイガシの自生する地域を重点的に調べれば, 兵庫県のほかの地域からも得られるかもしれない.

ギンモンマイコモドキは丹波市から記録されている(宇野ほか, 2024b). 本種の採集時の状況や採集された環境については不明である. 兵庫県の記録は山本(1958)が最後と思われ, 近年の記録はないと思われる.

3-E. 但馬地域に特有な種

但馬地域には比較的標高の高いエリアが含まれ, 兵庫県では本地域に特有な種も多い. 本項では, 但馬地域に固有な種の中で, 興味深い種を挙げておきたい. 但馬地方に特有な種としては, アキバエダシヤク *Hypomecis akiba*・ミミモンエダシヤク *Eilicrinia wehrlii*・ユキムカエフコシヤク *Alsophila inouei*・カギバモドキ *Pseudandracra gracilis*・エゾクシヒゲシヤチホコ *Ptilophora jezoensis*・スジモクメシヤチホコ *Hupodonta lignea*・タカムクシヤチホコ *Takadonta takamukui*・ウグイスシヤチホコ *Pheosiopsis olivacea*・クロオビアツバ *Anatatha wilemani*・エゾベニシタバ *Catocala nupta*・マダラキンウワバ *Polychrysis splendida*・ヒメネグロケンモン *Colocasia umbrosa*・ゴマシオケンモン *Acronicta isocuspis*・ヨモギガ *Schinia scutosa*・クロビロードヨトウ *Sidemia bremeri*・キュウシュウマエアカシロヨトウ *Leucapamea kyushuensis*・ヒメキイロヨトウ *Anapamea incerta*・モンハイイロキリガ *Lithophane plumbealis*・オオモンキキリガ *Xanthia tunicata*・エゾキイロキリガ *Tiliacea japonago*・ミヤマキリガ *Cosmia unicolor*・マダラキボシキリガ *Dimorphicosmia variegata*・フタスジキリガ *Enargia flavata*・ムラサキハガタヨトウ *Blepharita amica*・オオノコバヨトウ *Tiracola aureata*・ハンノキマ加里ガ *Incurvariaalniella* が特筆される. なお, 本項では, 扱う蛾の種数が多いため, 上記の種を, 「3-E-1. 山地性と考えられる種」「3-E-2. その他の種」として, 分けて扱いたい.

3-E-1. 山地性と考えられる種

ミミモンエダシヤクは養父市・香美町から記録されており(宇野ほか, 2024b), 具体的な産地としては東鉢伏高原が挙げられる(坪田・高橋, 2021). 寄主植物はハルニレ・オヒョウ(岸田, 2011a). 本種は関東以西では山地性とされる(坪田・高橋, 2021).

ユキムカエフコシヤクは香美町から記録がある(宇野ほか, 2024b). 兵庫県では, 最近になって記録された種である. 寄主植物はヤマハンノキ(岸田, 2011a).

岸田 (2011a) によると, 関東地方周辺では標高 700m ~ 1000m に分布するとのことなので, 山地性と考えられる種に含めておく。

カギバモドキは豊岡市から記録されている (宇野ほか, 2024b). 寄主植物はナツツバキ・ヒメシャラ (岸田, 2011a). 岸田 (2011a) によると, 「山地に産するが, あまり多くはなく, 特に♀は得難い」とのことである。

エゾクシヒゲシャチホコは養父市・香美町・朝来市で記録されている (谷田, 1988; 松尾, 2020). 兵庫県では比較的標高の高い地域に産する種と思われる。寄主植物はカエデ類 (岸田, 2011b).

スジモクメシャチホコは養父市・香美町で記録されている (宇野ほか, 2024b). 寄主植物はハルニレ・オヒョウ (岸田, 2011b). 兵庫県では比較的標高の高い地域に産する種と思われる。「成虫は 8 月に見られるが, 多くない」とされる (岸田, 2011b).

タカムクシャチホコは養父市・新温泉町で記録がある (宇野ほか, 2024b). 具体的な産地は, 扇ノ山などが挙げられる (谷田, 1986). 寄主植物は, ブナ・イヌブナ (岸田, 2011b). ブナ林固有の種とされ (谷田, 1986), 兵庫県では比較的標高の高い地域に産する種と思われる。

ウグイスシャチホコは養父市で記録されている (宇野ほか, 2024b). 兵庫県内の具体的な産地としては, 関宮町福定などが挙げられ, 山地性とされる (高島, 2001c). 寄主植物はブナ・イヌブナ (岸田, 2011b). 本種は, スズキシャチホコに似るので同定に注意が必要である。

エゾベニシタバは香美町ハチ北高原で記録されている (徳平, 2016). 寄主植物はドロヤナギなど (岸田, 2011b). 阪上ほか (2017) では, 本種について「幼虫はヤマナラシ属を食べるため, ムラサキシタバの採集記録がある場所では今後追加の記録が得られる可能性がある。」との記述がある。

ヒメネグロケンモンは養父市・香美町で記録されている (宇野ほか, 2024b). 具体的な産地は, 香美町東鉢伏高原が知られている (坪田・高橋, 2021). 山地に生息する種である。

ゴマシオケンモンは兵庫県では香美町で記録されている (宇野ほか, 2024b). 具体的な産地は村岡町鉢北高原であり, 採集時の環境について, 「現地は鉢伏山北東斜面の標高約 800m の地点で, 乾性草原とミズナラ, ブナ, ハルニレなどの温帯林が混在し, 冬期はスキー場として利用されている」との記述がある (高島, 2000c). 寄主植物はブナ (岸田, 2011b). 兵庫県下の本種の分布が限定される要因として, ブナ林のある地域と本種の分布が重なっている可能性が考えられる。

モンハイイロキリガは養父市の丹戸鉢伏山で記録

がある (松尾, 2020). 寄主植物はシナノキ (岸田, 2011b). 兵庫県では山地に生息する種と思われる。

オオモンキキリガは香美町の村岡区大笹ハチ北高原で記録されている (阪上ほか, 2015). 寄主植物はハルニレ (岸田, 2011b).

エゾキイロキリガは養父市・香美町で記録されている (阪上ほか, 2015; 松尾, 2020). 寄主植物はシナノキ属 (岸田, 2011b).

ミヤマキリガは香美町で記録されている (坪田・高橋, 2021). 寄主植物はシナノキ (岸田, 2011b). 兵庫県では比較的標高の高い地域に産する種と思われる。

マダラキボシキリガは香美町・豊岡市で記録されている (宇野ほか, 2024b). 寄主植物はシナノキ (岸田, 2011b). 兵庫県版レッドリスト 2022 では本種は「要調査」に指定されており, 優れた自然の指標種になりうるとされている (兵庫県, 2023). 分布は食餌植物 (シナノキ) の分布に依存するという (兵庫県, 2023).

フタスジキリガは香美町で記録されている (坪田・高橋, 2021). 寄主植物はブナ (岸田, 2011b). 本種は兵庫県では比較的標高の高い地域に産する種かもしれない。

ムラサキハガタヨトウは, 養父市で記録されている (松尾, 2020). 寄主植物は, 日本ではヨモギの記録が知られている (岸田, 2011b). 岸田 (2011b) では, 本種の分布は「北海道, 本州 (東北地方・中部地方)」とされており, 兵庫県の記録は分布上注目される。

3-E-2. その他の種

アキバエダシャクは香美町 (旧村岡町) から記録されている (高島, 2003). 寄主植物はカシワ・ミズナラ・クヌギ・オニグルミ・アカメガシワ (岸田, 2011a). 本種はウスバミスジエダシャクなどと似るので, 他地域に生息していても見落とされている可能性はあると思われる。

クロオビアツバは養父市・朝来市で記録されている (宇野ほか, 2024b). 寄主植物はエノコログサ・メヒシバ (岸田, 2011b). 兵庫県内の分布が但馬地域に限られている原因はよくわからない。

マダラキンウワバは香美町東鉢伏高原で記録されている (坪田・高橋, 2021). 寄主植物はホソバトリカブト・エゾトリカブト・オオダイブシ (岸田, 2011b). 本州では年 2 回発生するが分布はかなり局地的とされる (高島, 2001a).

ヨモギガは香美町ハチ北高原で記録されている (阪上, 2024). 寄主植物はミブヨモギ・ヨモギ (岸田, 2011b). 移動性の強い種として知られており (岸田, 2011b), 兵庫県産の個体も別の地域から移動してきた可能性は考えられる。

クロビロードヨトウは養父市関宮町轟・香美町東鉢伏高原などで記録されている(高島, 2002; 坪田・高橋, 2021). 内陸草原で採集される種とされる(岸田, 2011b).

キュウシュウマエアカシロヨトウは朝来市で比較的最近の記録がある(坪田, 2021). 局地的で, まれな種とされる(岸田, 2011b). 鳥取県(2022)によると, 本種の寄主植物等の生態は一切不明である. なお, 兵庫県と隣接する鳥取県のレッドデータブックでは, 本種は「情報不足(DD)」に指定されている.

ヒメキイロヨトウは養父市で記録がある(高島, 2002). やや局地的な産出とされる(高島, 2002).

オオノコバヨトウは香美町で記録されている(坪田・高橋, 2021). 本種は暖地に多く生息する種であるため, 注意して探せば兵庫県南部からも得られる可能性はあると思われる.

ハンノキマガリガは養父市で記録されている(西村, 1988). 寄主植物はハンノキ(広渡ほか, 2013). 兵庫県では唯一分布することが知られているマガリガ科の蛾である. 広渡ほか(2013)では, 本種について, 「早春に多数の♂成虫が開花したハンノキの樹冠部を飛翔する」との記述があり, このような時期・環境を注意して探せば, 本種は兵庫県のほかの地域からも見つかるかもしれない.

3-F. 淡路地域に特有な種

淡路地域(淡路島)は兵庫県では最も南部に位置し, いくつか固有な種がある. 淡路地域では, 藤平 明氏や登日邦明氏らによって多くの蛾類が記録された. 淡路島産の蛾類を記録した文献として, 「淡路島南部の蛾」などが挙げられる(藤平, 1999). 以下に, 兵庫県では淡路島のみで見つかる種のうち, 興味深いものを書き留めておく. なお, 淡路地域に特有な種としては, シロモンウスチャヒメシャク *Organopoda carnearia*・ボタンヅルナミシャク *Horisme vitalbata*・クロスジユミモンクチバ *Melapia japonica*・ウスグロマダラ *Inope maerens*・ジャンボトリバ *Agdistopis sinhala*・シナミズメイガ *Elophila sinicalis*・アカヘリオオキノメイガ *Botyodes asialis*・ヤツボシノメイガ *Prophantis adusta* が特筆される.

シロモンウスチャヒメシャクは, 南あわじ市の南淡町灘大川で記録されている(藤平, 1999). 本種の寄主植物はタブノキ(岸田, 2011a). 岸田(2011a)には, 「近年, 国内の分布域が明らかに北上している」との記述があり, タブノキの自生する地域を調査すれば, 兵庫県本土域からも発見されるかもしれない.

ボタンヅルナミシャクは南あわじ市などの記録が知られている(藤平, 1979). 本種の寄主植物はボタンヅ

ル(岸田, 2011a). 「分布は広いが局地的で, 個体数は非常に少ない」とされる(岸田, 2011a). ボタンヅルの自生する地域で調査を行えば, 本種は兵庫県本土域からも発見されるかもしれない.

クロスジユミモンクチバは洲本市・南あわじ市などで記録がある(高島, 1996b). なお, 兵庫県は本種の分布の北限になるという(兵庫県, 2023). 兵庫県版レッドリスト 2022 で「要調査」に指定されており, 今後も県内の動向を見守る必要がある.

ウスグロマダラは南あわじ市で記録がある(藤平, 1999). 兵庫県内の本種の生息環境については同文献に記述がなく, よくわからない. 寄主植物は, ササ類(広渡ほか, 2013).

ジャンボトリバは洲本市などで記録がある(登日, 1982). 本種の兵庫県内の生息環境の情報については, 同文献に記述がないため, よくわからない.

シナミズメイガは南あわじ市で記録がある(藤平, 2002). 寄主植物はウキクサ・トチカガミ(那須ほか, 2013).

アカヘリオオキノメイガは南あわじ市で記録されている(藤平, 1996). 淡路島固有の種として扱ったが, 南方からの飛来個体またはそれに基づく一時的な発生であった可能性も指摘されている(兵庫県, 2023). 寄主植物は, 日本ではイチジクが知られている(那須ほか, 2013).

ヤツボシノメイガは南あわじ市で記録がある(藤平, 2002). 寄主植物はクチナシ・ギョクシンカ・タニワタリノキ(那須ほか, 2013). 本種はよく探せば兵庫県本土域からも見つかると思われる.

4. 複数地域などから記録されているが, 特徴的な種

兵庫県では複数の地域から記録されている, 産地の地域が明確になっていない記録があるなどの関係で, 「3. 地域ごとに特有な種について」で取り上げられなかった種の中で, 興味深い環境に生息する種などを本項で扱っておきたい.

4-A. 比較的標高の高い地域に生息すると考えられる種

兵庫県では標高の高い地域の多くは北部地域(主に播磨地域の一部や, 但馬地域)になるが, 神戸地域の六甲山でも標高の高い地域に住む種が得られた例がある. 兵庫県で比較的標高の高い地域に生息と思われる種を以下にまとめておきたい.

キジマソトグロナミシャク *Eulithis pyropata*・シーベルスシャチホコ *Odontosia sieversii*・キエグリシャチホコ *Himeropteryx miraculosa*・アオケンモン *Belciades niveola*・ハイイロハガタヨトウ *Meganephria cinerea*・シロクビキリガ *Lithophane consocia*・ウスアオキリガ

Lithophane venusta・カタハリキリガ *Lithophane rosinae*・アメイロホソキリガ *Lithophane remota*・コケイロホソキリガ *Lithophane nagaii*・ヨスジアカヨトウ *Pygopteryx suava*・ヤナギキリガ *Ipimorpha retusa*・ドロキリガ *Ipimorpha subtusa*・モンキヤガ *Diarsia dewitzi*・オオアオバヤガ *Anaplectoides virens* など

また、上記で挙げた、兵庫県内で比較的標高の高い地域に生息すると考えられる種のうち、特に興味深いものを以下に書き留めておきたい。

キジマソトグロナミシャクは養父市およびその周辺(氷ノ山など)で見ついている(宇野ほか, 2024b). 寄主植物はヤシャビシャク(岸田, 2011a).

シーベルスシャチホコは養父市およびその付近で記録されている(宇野ほか, 2024b). 高島(1999)によると、兵庫県の具体的な産地としては、横行溪谷が知られている。やや標高の高い地域に生息する種かもしれない。寄主植物はダケカンバ・シラカンバ・ウダイカンバ・ヤシャブシ(岸田, 2011b).

4-B. 湿地・草原などに生息すると思われる種

湿地という環境は、遷移により失われやすいものであり、湿地に住む昆虫類は記録しておく必要性が高い。また、草原環境も湿地と同じく遷移によって失われやすく、注目しておく必要がある。なお、草原といってもスキー場・河川敷・荒地など様々な種類がある。以下に兵庫県で見ついている種のうち、湿地や草原を住みかとする蛾類について、少し挙げておきたい。

フチグロトゲエダシャク *Nyssiodes lefuarius*・カギモンハナオイアツバ *Cidariphura signata*・キマダラコヤガ *Acontia trabealis*・クビグロケンモン *Acrionicta digna*・エゾチャイロヨトウ *Lacanobia splendens*・ヨモギキリガ *Orthosia ella*・カバイロキヨトウ *Mythimna iodochra* など

また、上に挙げた兵庫県で湿地・草原に生息すると考えられる種のうち、特に興味深いものを以下に書き留めておきたい。

フチグロトゲエダシャクは豊岡市や新温泉町で記録されている(宇野ほか, 2024b). 佐用町で見つかったとの情報もあるが(久保, 2020), 正しい情報なのか疑問である。河川敷やスキー場などで記録されている。

キマダラコヤガは小野市・尼崎市で見ついている(宇野ほか, 2024b). また加古川流域付近でも記録があるようである。京都府レッドデータブック 2015 では、「要注目種」に指定されており、「河川敷を含む多様で良好な草地環境の指標となる」との記述があるため、隣接する兵庫県でも情報の蓄積が必要である。なお、外村・上森(2024)によると、尼崎市では意外にも市街地に近い場所(西武庫公園)で見ついている。

ヨモギキリガは神戸市・神河町・市川町・宝塚市で

見ついている(宇野ほか, 2024b). 兵庫県版レッドリスト 2022 では、「神戸市・神河町」のみが紹介されているが、上記のように宝塚市でも記録されている。なお、同文献では「最近の確認例がない」とされているが、筆者は2016年に宝塚市の2地点(宝塚市ゆずり葉台緑地公園付近および、宝塚市武田尾溪谷)で本種を採集している(宇野, 2020; 宇野, 2021a). また、2018年には市川町でも発見されている(坪田, 2021).

4-C. 沿岸部を中心として生息する種

兵庫県南部の沿岸部には、ウバメガシの生えている地域があり、その環境を中心として生息する種が存在する。その種を、以下に挙げておきたい。

ヤクシマキリガは神戸市・たつの市・南あわじ市で見ついている(宇野ほか, 2024b). 本種の兵庫県の具体的な産地としては、中山ほか(2008)で報告されている須磨鉢伏山などが有名である。ウバメガシを寄主植物とするキリガで(岸田, 2011b), 兵庫県では海沿いで見つかることが多いようである。

5. 偶産蛾・近年兵庫県に進出してきた可能性のある種・外来種について

本項では、偶産蛾・近年兵庫県に進出してきた可能性のある種・外来種について述べておきたい。

5-A. 偶産蛾

偶産蛾とは、その地域に本来生息していない蛾類で、ほかの地域から一時的に侵入した種などのことを指す。兵庫県の山地では、気流などによって吹き上げられてきたと考えられる偶産蛾が得られることがある。また、山地以外の場所でも偶産蛾は見つかることがある。兵庫県において偶産蛾と思われる種では、オオツバメエダシャク *Amblychia angeronaria*・シンジュキノカワガ *Eligma narcissus* (コブガ科)・ミミモンクチバ *Anticarsia irrorata*・オオムラサキクチバ *Anisoneura aluco*・ヒメアケビコノハ *Eudocima phalonia*・キマエコノハ *Eudocima salamina*・マエジロアカフキヨトウ *Mythimna pallidicosta*・キバネハラナガノメイガ *Tatobotys biannulalis*・シロフクロノメイガ *Pygospila tyres* が特筆される。

オオツバメエダシャクは市川町・佐用町で記録されている(宇野ほか, 2024b).

シンジュキノカワガは兵庫県の各地で記録されている(宇野ほか, 2024b). 兵庫県内では、2023年に大発生したとの情報がある(近藤, 2024).

ミミモンクチバは神戸市から記録がある(宇野ほか, 2024b). 日本本土では偶産と考えられている(岸田,

2011b).

オオムラサキクチバは香美町で1例の記録がある(宇野ほか, 2024b).

ヒメアケビコノハは養父市・香美町・神戸市などで記録されている(宇野ほか, 2024b).

キマエコノハは養父市・香美町・朝来市・南あわじ市などから記録されている(宇野ほか, 2024b).

マエジロアカフキヨトウは養父市・市川町から記録されている(宇野ほか, 2024b). 本種は、兵庫県と隣接する鳥取県でも得られている(松井, 2018).

キバネハラナガノメイガは新温泉町から記録されている(宇野ほか, 2024b).

シロフクロノメイガは養父市・香美町・宝塚市から記録されている(宇野ほか, 2024b).

5-B. 近年兵庫県に進出してきた可能性がある種

以下の種には、比較的目立つものばかりであるが、2000年代以前にも兵庫県の蛾相を精力的に調べていた方がいらっしゃるにもかかわらず、比較的最近兵庫県下で初めて記録されたものが多い。これらの種は、日本のほかの地域では記録があることから、外来種ではないと思われるが、比較的最近、兵庫県に進出した種である可能性が考えられる。具体的にはエグリイチモジエダシャク *Agaraeus discolor*・ミドリアキナミシャク *Epirrita viridipurpurens*・アカモンコナミシャク *Palpoctenidia phoenicosoma*・クロメンガタスズメ *Acherontia lachesis* が挙げられる。

エグリイチモジエダシャクは宝塚市・相生市から記録されている(宇野, 2022; 高橋, 2023a). 記録はいずれも2022年以降に発表された、近年のものである。

ミドリアキナミシャクは宝塚市・西宮市・相生市から記録されている(宇野ほか, 2024b). 記録はいずれも2019年以降に発表されたものである。

アカモンコナミシャクは宝塚市・西宮市・相生市から記録されている(宇野ほか, 2024b). 記録はいずれも2023年に発表されたものである。なお、大阪府箕面市箕面山では、2015年に見つかったとの情報がある(シニア自然大学校, 2015).

クロメンガタスズメは比較的広い範囲で記録がある。2000年代以降兵庫県に進出したと思われる種で、古くから生息するメンガタスズメ *Acherontia styx* と競合していることが考えられる。なおメンガタスズメについては近年では兵庫県内で少ないながら見ついている。

5-C. 外来種

兵庫県に侵入した外来種の蛾類について言及しておきたい。これらの種には、比較的最近日本に侵入した種のほか、一部に農業の害虫になる可能性のある種が含ま

れており、今後の動向に注意が必要である。兵庫県に侵入した外来種としては、アメリカシロヒトリ *Hyphantria cunea*・ツマジロクサヨトウ *Spodoptera frugiperda*・トマトキバガ *Tuta absoluta* (キバガ科)・ヒロヘリアオイラガ *Parasa lepida* (イラガ科)・アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis*・シナチクノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* が挙げられる。

アメリカシロヒトリは兵庫県ではいろいろな地域から記録があるが、淡路島からは記録がないようである(宇野ほか, 2024b). 最近の記録は多くないと思われる。

ツマジロクサヨトウは南あわじ市などで記録がある(宇野ほか, 2024b). トウモロコシや野菜類などの害虫とされている。

トマトキバガは加西市で記録がある(宇野ほか, 2024b). ナス科植物の害虫となる可能性が示唆されている。

ヒロヘリアオイラガは兵庫県では比較的広い範囲で記録がある。1930年代頃から日本で見ついている外来種である(広渡ほか, 2013).

アメリカピンクノメイガは西宮市・香美町・高砂市・淡路市で記録がある(宇野ほか, 2024b). 日本では2019年に初めて確認された種である(矢口, 2021).

シナチクノメイガは香美町で記録がある(宇野ほか, 2024b). 日本では2022年に初めて記録された外来種とされている(岩下・松井, 2022). 筆者は大阪府北部でも本種を確認しており、兵庫県では北部だけでなく広い範囲に広がっていると思われるため、本種の分布状況については引き続き調査が必要である。

6. 環境省レッドリスト2020に掲載されている 兵庫県の蛾について

環境省レッドリスト2020に掲載されている種のうち、兵庫県で見ついている蛾類について考えてみたい。以下にそれらの種を列挙する。

6-A. 絶滅危惧II類 (VU)

アシナガモモブトスカシバ *Macroscelesia longipes*・スキバホウジャク *Hemaris radians*・ガマヨトウ *Globia aerata*・キスジウスキヨトウ *Globia sparganii*・ギンモンアカヨトウ *Plusilla rosalia*

上記の5種(アシナガモモブトスカシバ・スキバホウジャク・ガマヨトウ・キスジウスキヨトウ・ギンモンアカヨトウ)について、これらは基本的に湿地または草原の環境に生息する種である。特に低地の湿地や草原は、開発の影響を受けやすいので今後の動向に注意が必要である。

6-B. 準絶滅危惧 (NT)

ツシマキモンチラシ *Eterusia watanabei*・ルリハダホソクロバ *Rhagades pruni*・ムナカタミズメイガ *Paraponyx ussuriensis*・クワトゲエダシヤク *Apochima excavata*・オナガミズアオ *Actias gnoma*・ヒメスズメ *Deilephila askoldensis*・クワヤマエグリシヤチホコ *Ptilodon kuwayamae*・ウスジロドクガ *Calliteara virginea*・トラサンドクガ *Kidokuga torasan*・スゲドクガ *Laelia coenosa*・シロホソバ *Eilema degenerella*・ヤネホソバ *Eilema fuscodorsalis*・ゴマベニシタヒトリ *Rhyparia purpurata*・マエアカヒトリ *Aloa lactinea*・ウスズミケンモン *Acronicta carbonaria*・クビグロケンモン *Acronicta digna*・アカヘリヤガ *Adisura atkinsoni*・コシロシタバ *Catocala actaea*・ヒメシロシタバ *Catocala nagioidea*・カギモンハナオイアツバ *Cidaripura signata*・アオモンギンセダカモクメ *Cucullia argentea*・ウスミモンキリガ *Eupsilia contracta*・キシタアツバ *Hypena claripennis*・ミスジキリガ *Jodia sericea*

以下に、上記の蛾類の生息地などについて少し書き留めておきたい。

ヒメスズメ・アカヘリヤガ・カギモンハナオイアツバ・ウスジロドクガ・スゲドクガ・トラサンドクガ・ムナカタミズメイガなど、湿地・草原に関係する蛾類が確認されている。なお、ヒメスズメに関しては、標本が確認できたわけではなく、分布上やや疑問があるとのことである（阪上、私信）。

キシタアツバは兵庫県では近年でも見つかっている。近年の記録としては、例えば神戸市北区道場町の記録が挙げられる（宇野, 2021c）。本種はヤブマオを食草することが知られている（岸田, 2011b）。

ヒメシロシタバは生息に適した環境があれば、兵庫県北部の低地でもいるようであるが、知られている産地は多くない（宇野, 2021b）。

コシロシタバは二次林の蛾だが（兵庫県, 2012）、兵庫県下では現在あまり減っていないようである（兵庫県, 2023）。

ウスズミケンモンはクヌギの生える里山環境を生息地とする蛾である（鳥取県, 2022）。

アオモンギンセダカモクメは高砂市で1963年の記録があるが（岡本, 1997）、現在も生息しているかは不明である。

ウスミモンキリガはハンノキなどを食樹とし、湿地などの環境を表す蛾である（安達, 2008）。

ミスジキリガは里山のクヌギ・コナラ二次林の蛾である（大分県, 2022）。

ツシマキモンチラシは近年、兵庫県から記録された。ヒサカキを寄主植物とする（安岡, 2022）が、兵庫県での本種の生息に必要な条件は不明である。

7. 今後新たに兵庫県から発見される可能性のある種

兵庫県産蛾類データベースに入力されておらず、兵庫県で記録がないと思われる種のうち、今後同県から記録される可能性があると考えられる種について言及しておきたい。兵庫県で蛾類の調査を行われる方は、下記の種について調べておくと、何か新しい発見があるかもしれない。兵庫県から今後新たに記録される可能性のある種は他にも少なからず存在するが、ここでは特に、ワタナベカレハ *Gastropacha clathrata*・シタキドクガ *Calliteara taiwana*・オオキイロアツバ *Pseudalemma miwai*・ギンヒゲナガ *Nemophora askoldella*・ヤホシホソマダラ *Balataea octomaculata*・ハイイロボクトウ *Phragmataecia castaneae*・アカミヤクノメイガ *Ecpyrrhorhoe rubiginalis* について言及しておく。

ワタナベカレハは鳥取県東部に多産するとの情報がある（松井ほか, 2018）ので、隣接する兵庫県北西部を重点的に調べれば、兵庫県からも得られるかもしれない。

シタキドクガは大阪府では見つかっている（大阪府, 2000）ので、隣接する兵庫県でも発見される可能性はある。

オオキイロアツバはツゲ群落固有の蛾とされている（愛知県, 2020）。兵庫県内のツゲの生えている場所で調査を行えば、本種も見つかるかもしれない。

ギンヒゲナガは鳥取県で確認されているとの情報があるので（鳥取県, 2022）、隣接する兵庫県でも見つかる可能性はあると思われる。鳥取県（2022）によると、スキー場の草原に依存しているとのことなので、兵庫県でも北部のスキー場などを8月頃に探せば、見つかるかもしれない。

ヤホシホソマダラはインターネット上のブログなどに、佐用町や新温泉町で見つかったとの情報があるが、兵庫県における正式な記録はないものと思われる。環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧種（NT）とされ、兵庫県での記録も重要と思われるため、上記の情報も引用可能な媒体（学術誌など）に記録されることが望まれる。

ハイイロボクトウは湿地に生息する種である（広渡ほか, 2013）。6月から7月にかけて県内の湿地でライトトラップを行えば、兵庫県からも発見される可能性はあるかもしれない。

アカミヤクノメイガは鳥取県鳥取市で確認された記録が知られている（山岸, 2018）。兵庫県の特に北部でライトトラップを行う際は、本種に注意しておけば発見されるかもしれない。

8. 記録の整理・検討

蛾類には、もともと1種とされていたものが2種以上に分かれたものや、正確な同定には交尾器を顕微鏡で

確認しなければならない種などが存在する。兵庫県産の蛾類の記録についても、そのようなケースがあり、2種以上が混同されている可能性のある種も存在するため、本項で言及しておく。また、採集時の状況や地域などから、誤同定の可能性が考えられる記録もあり、それらについても本項で言及しておきたい。

8-A. ノコギリズメの記録についての疑問

ノコギリズメが関宮町から記録されている（一ノ本・永瀬，2000）が、誤同定や標本のラベルのつけ間違いなどではないかとやや疑問である。

8-B. ヒメズメの記録についての疑問

ヒメズメが関宮町から記録されている（一ノ本・永瀬，2000）が、誤同定や標本のラベルのつけ間違いなどではないかとやや疑問である。

8-C. 武田尾のシロテンシャチホコの記録の疑問

犬飼（2014）の武田尾のシロテンシャチホコの記録は、出現期からユミモンシャチホコの誤同定ではないかとやや疑問である。

8-D. ウンナンヨツボシホソバとヨツボシホソバについて

ウンナンヨツボシホソバとヨツボシホソバについて、少なくとも2011年以前の記録は、便宜上ヨツボシホソバとして扱っているが、実際は現在の分類におけるウンナンヨツボシホソバとヨツボシホソバが混同されていると思われる。

8-E. ホシオビコケガの仲間について

ホシオビコケガの仲間は近年複数種に分けられたが、過去の記録はその複数種が混同されていると思われる。過去の古い記録の標本などをすべて検し、現在の分類に分けることは事実上不可能に近いと思われるので、明確に区別・同定されている近年の記録を除き本データベースでは「複数候補」として扱い、種の断定を避けることとしたい。念のため、備考・検討として触れておく。

8-F. ゴマベニシタヒトリについて

ゴマベニシタヒトリが関宮町から記録されている（一ノ本・永瀬，2000）が、誤同定や標本のラベルのつけ間違いなどではないかとやや疑問である。

8-G. マダラツマキリヨトウとミナミツマキリヨトウについて

兵庫県ではマダラツマキリヨトウの記録が多数あり、ミナミツマキリヨトウの記録は確認されなかったが、これらの種の区別は交尾器での同定が確実とされているた

め、過去の県内の記録はこれらの種が混同されている可能性が考えられる。念のため、過去の記録は可能であれば見直す必要があるかもしれない。

8-H. アルプスギンウワバの記録についての疑問

アルプスギンウワバは関宮町から記録がある（一ノ本・永瀬，2000）が、誤同定や標本のラベルのつけ間違いなどではないか、やや疑問である。

8-I. 武田尾のカバイロミツボシキリガの記録についての疑問

シニア自然大学校（2019）の武田尾のカバイロミツボシキリガの記録は出現期及び生息環境から同定に疑問が持たれる。

8-J. テングイラガ類について

テングイラガの仲間は近年複数種に分けられたが、この仲間の過去の記録は混同されていると思われる。過去の記録の標本などをすべて検し、現在の分類に分けることは事実上不可能に近いと思われるので、本データベースでは「複数候補」として扱い、明確に区別・同定されている近年の記録を除いては、種の断定を避けることとしたい。念のため、備考・検討として触れておく。

8-K. コカクモンハマキの仲間について

旧和名でコカクモンハマキと呼ばれていた種は、現在の分類ではチャノコカクモンハマキ・リンゴコカクモンハマキなどに分けられている。過去の記録の標本などをすべて検し、現在の分類に分けることは事実上不可能に近いと思われるので、本データベースでは「複数候補」として扱い、明確に区別・同定されている近年の記録を除いては、種の断定を避けることとしたい。

8-L. アカジマダガとヒメアカジマダガについて

兵庫県からはヒメアカジマダガは記録されていないが、アカジマダガとヒメアカジマダガは外見での区別が困難であり、兵庫県の過去のアカジマダガの記録もこれらの2種が混同されている可能性はある。

8-M. ソトモンツガとニセソトモンツガについて

ソトモンツガとニセソトモンツガは、外見による区別は困難で、交尾器による同定で容易に区別されると言われている。兵庫県産蛾類データベースでソトモンツガとした記録は、写真から同定された可能性のある記録や、ニセソトモンツガが記載される前の記録が含まれるため、これらの記録では実際にはソトモンツガとニセソトモンツガが混同されている可能性がある。

8-N. 従来オオキバラノメイガとされていた種について

従来オオキバラノメイガとされていた種は、現在トチノメイガとハクウンボクノメイガに分けられている。なお、ハクウンボクノメイガは、兵庫県では香美町から記録されている。兵庫県の過去の記録で、オオキバラノメイガとされている種類が、現在のどちらの種に当たるのかは現時点では不明である。

8-O. その他、「複数候補」として扱った種のリスト

その他、本データベースで「複数候補」として扱った旧和名について、表4のようにリスト化しておきたい。

9. 「兵庫県産蛾類文献目録 2024」出版時に参照できなかった文献について

兵庫県産の蛾類について記述のある文献のうち、「兵庫県産蛾類文献目録 2024」出版以降に発行されたものはいくつかあるので、本項で書き留めておきたい。また、「兵庫県産蛾類文献目録 2024」はできるだけ完成度の高い目録となるよう心掛けたつもりであったが、出版後に掲載漏れの文献があったことが明らかになった。「兵庫県産蛾類文献目録 2024」出版時には参照できなかったが、その後で参照できた文献もある。本項では、そのような文献についても書き留めておきたい。

9-A. 「兵庫県産蛾類文献目録 2024」出版以降に発行された文献

宇野宏樹, 2024. 2010年から2021年にかけて見られた近畿地方およびその他の地域における貴重な昆虫類. SPINDA, 36&37: 73-77.

宇野宏樹, 2024. 兵庫県西宮市におけるイヌビワハマキモドキの記録. SPINDA, 36&37: 114.

宇野宏樹, 2024. 兵庫県美方郡新温泉町におけるナカアカクルマメイガの撮影記録. SPINDA, 36&37: 114-115.

宇野宏樹, 2024. 兵庫県におけるネグロシマメイガの近年の撮影記録. SPINDA, 36&37: 116.

阪上洗多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類3種の採集例. きべりはむし, 47(1): 68-69.

高橋弘樹, 2024. 兵庫県とその周辺で得られたシンジュキノカワガの記録と知見—2023年の大発生, 周年経過, 成虫の行動など—. きべりはむし, 47(1): 5-19.

高橋弘樹, 2024. 兵庫県たつの市において3年連続で発生したシンジュキノカワガの観察記録. きべりはむし, 47(1): 20-24.

高橋弘樹, 2024. 兵庫県たつの市で採集したシンジュキノカワガの卵からの飼育記録. きべりはむし, 47(1): 25-27.

表4. 「兵庫県産蛾類データベース」に含まれる、現在では複数の種類に分割されている仲間の旧和名などのリスト。

旧和名	現在の分類において候補とされる種
ナカグロモクメ	ナカグロモクメシャチホコ・ホシナカグロモクメシャチホコ
ホソツマキシヤチホコ	ムクツマキシヤチホコ・タカサゴツマキシヤチホコ
トモエガ	オスグロトモエ・ハグルマトモエ
シラクモヨトウ	アオフシラクモヨトウ・ネスジシラクモヨトウなど
シロミミアカヨトウ	ネスジシラクモヨトウ・シロミミハイロヨトウ
フチグロキンノメイガ	フチグロノメイガ・キイロフチグロノメイガ
ニッコウマダラメイガ	アカオビマダラメイガ・ウスアカマダラメイガ

外村俊輔・上森教慈, 2024. 尼崎市でキマダラコヤガを確認. きべりはむし, 47(1): 66-67.

近藤伸一, 2024. シンジュキノカワガ兵庫県, 京都府西部で大発生. 月刊むし, 641: 2-11.

なお、これらの文献には「2024-a1-〇〇〇」とIDをつけて、兵庫県産蛾類データベースの本体のエクセルファイルに入力済みである。

9-B. 「兵庫県産蛾類文献目録 2024」投稿時に見落とされていた文献

「兵庫県産蛾類文献目録 2024」の出版時に見落とされていた文献について、本項で書き留めておきたい。読者の皆様には、ご迷惑をおかけしたことを謹んでお詫び申し上げます。

相坂耕作, 1981. 宍粟郡下でムラサキシタバを採集. てんとうむし, 7: 40.

広地 昇・奈良隆史・木戸和伸, 1977. 三熊山の昆虫について. PARNASSIUS, 17: 5-28.

木村三郎, 1984. 広峰, 増位山系の昆虫. てんとうむし, 9: 53-58.

仲井啓郎, 1969. 氷上郡における栗園の昆虫相. 兵庫生物, 6(1): 65-72.

新家 勝, 1989. 武庫川周辺のシンジュサン. きべりはむし, 17(1): 1-5.

大貝秀雄, 2013. 兵庫県で採集した注目すべき蛾2種. 月刊むし, 509: 48.

佐々木昇 (編), 1994. 日本産蛾類の知見 - 日本産蛾類大図鑑以後の業績 (1982 -1993). 364pp. 個人出版.

佐々木昇 (編), 2006. 日本産蛾類の知見・2 (1994-2005 鱗翅類専門誌). 456pp. 兵田印刷工芸株式会社.

柴田 剛, 2004. 神戸市西区でナカグロクチバを採集. きべりはむし, 31(2): 58.

柴田洋昭, 2018. モンシロモドキ♀を神戸市垂水区にて観察 観察記録の報告と兵庫県版レッドリストでの取り扱いについて. SPINDA, 33: 85-87.

高島 昭, 1995. クロウスタビガの採集記録. きべりは

むし, 23(1) : 31.
 高島 昭, 2001. 安富町でオキナワリリチラシ. きべりはむし, 29(2) : 56.
 高島 昭, 2004. 兵庫県のシタバガ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・30). きべりはむし, 31(2) : 25-43.
 高島 昭, 2004. 兵庫県のアツバガ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・31). きべりはむし, 31(2) : 44-55.
 谷田 昌也, 1986. 扇ノ山の蛾類分布資料 (I). IRATSUME, 10 : 30-37.
 宇野宏樹, 2021. きべりはむし掲載の報文 5 編に関する訂正点. きべりはむし, 44(2) : 44-45.
 宇野宏樹, 2022. 宝塚市の緑地公園の昆虫についての続報及び追加訂正. きべりはむし, 45(1) : 95-96.
 内海功一, 1984. 昆虫館だより⑦. てんとうむし, 9 : 49.
 吉田浩史, 2015. 神戸空港島の昆虫相. きべりはむし, 37(2) : 37-48.

なお, これらの文献には「2024-m1-○○○」と ID をつけて, 兵庫県産蛾類データベースの本体のエクセルファイルに入力した.

9-C. 「兵庫県産蛾類文献目録 2024」出版時には参照できなかったが, その後で参照できた文献
 池内英二, 1966. 阪神地方平地の蛾について. 生物甲陽, 8 : 33-46.
 池内英二・橋本誠, 1966. 六甲山系鱗翅目の記録. 生物甲陽, 8 : 47-57.

なお, これらの文献は「2024-r1-○○○」と ID をつけて, 兵庫県産蛾類データベースの本体のエクセルファイルに入力している.

10. 「兵庫県産蛾類文献目録 2024」の正誤表

「兵庫県産蛾類文献目録 2024」に誤りがあったので, 謹んで訂正する (表 5).

読者の皆様には, ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます.

表 5. 「兵庫県産蛾類文献目録 2024」の訂正点.

ページ	段	誤	正
p59	右段	渡部康之	渡辺康之

11. おわりに

兵庫県の蛾類の概観を上記のようにまとめてみた. 今後, 兵庫県の蛾類相の記録がさらに進むことを願いたい. なお, 兵庫県本土域からは記録があるが, 淡路島からは未記録という種については, 淡路島産の記録を公表する意義があるので, このような種の淡路島産の記録を持っていらっしゃる方は, ぜひ何らかの媒体で記録して

いただければ幸いである. レッドリスト掲載種や外来種の市レベルの初記録についても, 環境調査の観点から発表する意義があると考えられるため, このような記録を持っていらっしゃる方も, ぜひ発表していただければ幸いである. また, 兵庫県以外の他の都道府県についても, 蛾類相がより明らかにされることを願いたい.

12. 謝辞

兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたっては, 学名や科の変換及び日本産蛾類の種数を調べるにあたって「List-MJ 日本産蛾類総目録」を使用した. 谷田昌也氏には文献の入手でお世話になったほか, 兵庫県産蛾類文献目録 2024 のミスを指摘していただいた. 東浩司氏・佐々木昇氏には文献の入手にあたってお世話になった. 枝恵太郎氏・片岡義方氏・森正人氏・鈴木信也氏・植田義輔氏には, データベースの作成にあたり, 情報提供等でお世話になった. 池田 大氏および阪上洗多氏には, 兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成に協力していただいたほか, 本報告の文章を確認していただいた. 上記の方々に, この場を借りて厚くお礼申し上げる.

引用文献

安達誠文, 2008. 宝塚市武庫川溪谷と西宮市甲山のキリガ相. 共生のひろば, 3 : 52-59.
 相坂耕作, 1995. 波賀町上野地区の昆虫類 INSECT FAUNA OF UENO, HAGA-CHO IN HYOGO PREFECTURE. てんとうむし, 特別号「遊蟲千年」. 83-104.
 愛知県, 2020. レッドデータブックあいち 2020. 昆虫類 2 (準絶滅危惧 NT から国リスト). https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/pdf/animals/rdb/09_%E6%98%86%E8%99%AB%E9%A1%9E%EF%BC%88NT~%E5%9B%BD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%EF%BC%89.pdf (2024 年 10 月閲覧).
 藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭 和也・藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相 - マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について -, きべりはむし, 33 (2) : 4-20.
 藤平 明, 1979. 南淡の蛾 (IV). PARNASSIUS, 20 : 10-18.
 藤平 明, 1996. 淡路島南部で注目される蛾 (III). PARNASSIUS, 44 : 8-9.
 藤平 明, 1999. 淡路島南部の蛾. 96pp. (自費出版).
 藤平 明, 2002. 淡路島南部の蛾 (1999) の訂正と追加. PARNASSIUS, 50 : 11-13.
 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 III. 360pp. 学研教育出版, 東京.

- 兵庫県, 2012. 兵庫県版レッドリスト 2012. (昆虫類).
<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/index.html>
 (2024年10月閲覧).
- 兵庫県, 2023. 兵庫県版レッドリスト 2022 (昆虫類).
https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022 (2024年10月閲覧).
- 環境省, 2020. 【昆虫類】環境省レッドリスト 2020.
<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf> (2024年10月閲覧).
- 一ノ本明英・永瀬幸一, 2000. 兵庫県・関宮町鉢伏高原産蛾類目録. 36pp. (自費出版)
- 犬飼拓展, 2014. 年間蛾類採集記録 2013年度版. SPINDA, 29: 108-117.
- 岩下幸平・松井悠樹, 2022. 中国南部からの外来種と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, 300: 683-684.
- 川副昭人, 1987. 佐用郡三日月町の蛾覚え書. てんとうむし, 10: 1-10.
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp. 学研教育出版, 東京.
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416pp. 学研教育出版, 東京.
- 近藤伸一, 2024. シンジュキノカワガ兵庫県, 京都府西部で大発生. 月刊むし, 641:2-11.
- 神戸市, 2020. 神戸の希少な野生動植物 神戸版レッドデータ 2020. <https://www.city.kobe.lg.jp/documents/41456/reddata2020kobever.pdf> (2024年11月閲覧).
- 久保弘幸, 2020. みんなでつなぐ初蝶リレー 2020. きべりはむし, 43 (2): 6-10.
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. キマダラコヤガ. <https://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/ins0508.html> (2024年10月閲覧).
- 松井悠樹, 2018. 鳥取県初記録となるマエジロアカフキヨトウを採集. ゆらぎあ, 36: 11-12.
- 松井悠樹・山岸瑞樹・中秀司, 2018. ワタナベカレハは鳥取県東部山地で多産する. ゆらぎあ, 36: 12-13.
- 松尾隆人, 2020. 氷ノ山・鉢伏山の注目すべき蛾類の記録. きべりはむし, 43 (1): 29-35.
- 中山日出海・小西堯生・船元祐亮・岩橋祐太・占部智史・阪上洗多・中野彰人・南野敦・西尾悠誠・福田洵・前田慧・前田慈・室崎隆春・吉賀一弘・吉水敏城・吉村卓也, 2008. 須磨鉢伏山の昆虫. 共生のひろば, 3: 84-87.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 IV. 552pp. 学研教育出版, 東京.
- 夏秋 優, 1997. 兵庫県尼崎市塚口の蛾. Crude, 41: 20-25.
- 新家 勝, 1981a. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (その1). きべりはむし, 9(1): 24-26.
- 新家 勝, 1981b. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (その2). きべりはむし, 9(2): 17-20.
- 新家 勝, 1982a. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (その3). きべりはむし, 10(1): 7-10.
- 新家 勝, 1982b. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その1). きべりはむし, 10(2): 10-16.
- 新家 勝, 1983. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その2). きべりはむし, 11(1): 6-10.
- 新家 勝, 1984. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その3). きべりはむし, 12(2): 53-55.
- 新家 勝, 1985. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その4). きべりはむし, 13(2): 36-40.
- 新家 勝, 1986a. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その5). きべりはむし, 14(1): 21-22.
- 新家 勝, 1986b. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その6). きべりはむし, 14(2): 30-33.
- 新家 勝, 1987. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その7). きべりはむし, 15(1): 19-21.
- 新家 勝, 1988. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その8). きべりはむし, 16(1): 13-15.
- 新家 勝, 1989. 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾 (続報その9). きべりはむし, 17(2): 31-35.
- 新家 勝, 1993. 宝塚大橋で採集した蛾 (続報その10). きべりはむし, 21(2): 53-64.
- 西村 登, 1988. ハンノキマガリガの幼虫と巢. IRATSUME, 12: 76-77.
- 岡本 清, 1997. 高砂で採集した蛾. てんとうむし, 11: 40-45.
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内1区画における昆虫相. 94pp. 播磨長翅目研究センター, 上郡.
- 大分県, 2022. レッドデータブックおおいた 2022. ミスジキリガ. <https://www.rdb-oita.jp/data/10260/> (2024年10月閲覧).
- 大阪府, 2000. 大阪府野生生物目録. 214pp.
- シニア自然大学校, 2012. 鶴殿 (高槻市) の昆虫相調査目録 (2012年1月~12月).
- シニア自然大学校, 2015. 箕面山 (箕面市) の昆虫相調査目録 (2015年1月~12月).
- シニア自然大学校, 2019. 武田尾 (宝塚市・西宮市) の昆虫相調査目録 (2019年1月~12月).
- 大阪昆虫同好会, 2023. 生駒山地の昆虫. 194pp. DPS.

- 阪上洗多, 2015. ニッポンヒロコバネを兵庫県下で採集. きべりはむし, 37(2) : 68.
- 阪上洗多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47 (1) : 68-69.
- 阪上洗多・徳平拓朗・松尾隆人, 2017. 兵庫県カトカラ図鑑. きべりはむし, 39 (2) : 25-36.
- 阪上洗多・徳平拓朗・菅澤祥史, 2015. 兵庫県で記録の少ないキリガ亜科 4 種. きべりはむし, 37 (2) : 35-36.
- 高橋弘樹, 2021. 相生市「羅漢の里」におけるフユシャク類の定点調査記録. きべりはむし, 44 (1) : 62-70.
- 高橋弘樹, 2022a. 2021 年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録. きべりはむし, 45 (1) : 80-84.
- 高橋弘樹, 2022b. 2021 年～2022 年に西播磨地域で採集・撮影した注目すべき蛾類の記録. きべりはむし, 45 (2) : 36-40.
- 高橋弘樹, 2022c. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (1) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2022 -. きべりはむし, 45(2) : 41-51.
- 高橋弘樹, 2023a. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (2) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2023 -. きべりはむし, 46(1) : 1-12.
- 高橋弘樹, 2023b. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (3) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2023 -. きべりはむし, 46 (2) : 1-16.
- 高橋輝男, 2019. 兵庫県神崎郡福崎町でオキナワリリチラスを確認. きべりはむし, 42(2) : 59.
- 高橋輝男, 2020a. エグリキリガを兵庫県市川町で採集. きべりはむし, 43(1) : 59.
- 高橋輝男, 2020b. 兵庫県姫路市山田町でキイロトゲエダシャクを採集. きべりはむし, 43(1) : 59-60.
- 宝塚市, 1992. 宝塚の昆虫 III 蛾類 (I). 286pp. 宝塚市教育委員会.
- 宝塚市, 1993. 宝塚の昆虫 V 蛾類 (II). 290pp. 宝塚市教育委員会.
- 宝塚市, 1994. 宝塚の昆虫 VII ハチ・アリ・ノミ・(補遺). 379pp. 宝塚市教育委員会.
- 高島 昭, 1995. 波賀町引原ダム周辺における蛾相 第 2 報. きべりはむし, 23(2) : 10-23.
- 高島 昭, 1996a. 相生市三濃山麓の蛾 (1) (兵庫県蛾類分布資料・4). きべりはむし, 24(1) : 27-39.
- 高島 昭, 1996b. 兵庫県版レッドデータブックの蛾. きべりはむし, 24(2) : 35-44.
- 高島 昭, 1997. 上郡町で採集した蛾 (1) (兵庫県産蛾類分布資料・6). きべりはむし, 25(1) : 31-39.
- 高島 昭, 1998. 相生市三濃山麓の蛾 (2) 兵庫県産蛾類分布資料・10. きべりはむし, 26(2) : 59-64.
- 高島 昭, 1999. 兵庫県西部山地で採集した注目すべき蛾. 誘蛾燈, 157 : 93-95.
- 高島 昭, 2000a. 兵庫県のモンヤガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・16. きべりはむし, 28(1) : 77-88.
- 高島 昭, 2000b. 兵庫県のヨトウガ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・18). きべりはむし, 28(2) : 59-76.
- 高島 昭, 2000c. 鉢北高原でゴマシオケンモンを採集 (兵庫県産蛾類分布資料・19). きべりはむし, 28(2) : 85.
- 高島 昭, 2001a. 兵庫県のウワバ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・22. きべりはむし, 29(2) : 31-39.
- 高島 昭, 2001b. 安富町でオキナワリリチラス. きべりはむし, 29(2) : 56.
- 高島 昭, 2001c. 兵庫県のシャチホコガ (2) 兵庫県産蛾類分布資料・21. てんとうむし, 14 : 61-76.
- 高島 昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科 (その 1) 兵庫県産蛾類分布資料・24. きべりはむし, 30(1) : 80-93.
- 高島 昭, 2003. 兵庫県未記録の蛾 兵庫県産蛾類分布資料・27. きべりはむし, 31(1) : 53-56.
- 田中 蕃, 1966. 神戸市摩耶山に産する若干の蛾類. 蛾類通信, 45 : 442-444.
- 谷田昌也, 1986. 扇ノ山の蛾類分布資料 (I). IRATSUME, 10 : 30-37.
- 谷田昌也, 1988. エゾクシヒゲシャチホコを生野町で採集. IRATSUME, 12 : 81.
- 登日邦明, 1982. ジャンボトリバ淡路島に産す. PARNASSIUS, 26:27.
- 徳平拓朗, 2016. 兵庫県からのエゾベニシタバの初記録. きべりはむし, 39 (1) : 44-45.
- 徳平拓朗・堀内湧也・中安慎太郎, 2010. 神戸市北区藍那で採集された貴重な昆虫. きべりはむし, 32(2) : 15-17.
- 外村俊輔・上森教慈, 2024. 尼崎市でキマダラコヤガを確認. きべりはむし, 47(1) : 66-67.
- 鳥取県, 2022. レッドデータブックとっとり第 3 版. 5. 昆虫類. <https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1308351/5insects087-171-press2.pdf> (2024 年 10 月閲覧).
- 東京都, 2023. 東京都レッドデータブック. カギモンハナオイアツバ. <https://tokyo-rdb.metro.tokyo.lg.jp/%E3%82%AB%E3%82%AE%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%83%8F%E3%83%8A%E3%82%AA%E3%82%A4%E3%82%A2%E3%83%84%E3%83%90/> (2024 年 10 月閲覧).
- 坪田 瑛, 2018. 兵庫県福崎町でクロバネフユシャクを発見. きべりはむし, 40(2) : 27.
- 坪田 瑛, 2021. 兵庫県で報告の少ないヤガ科について.

きべりはむし, 44 (1) : 44-50.

坪田 瑛・高橋輝男, 2021. 2021 年の東鉢伏高原における注目すべき蛾類について. 44 (2) : 18-24.

植田義輔, 2022. ベニイカリモンガの兵庫県からの記録と大阪府での追加記録. きべりはむし, 45 (2) : 52-53.

宇野宏樹, 2020. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II. きべりはむし, 43(1) : 18-28.

宇野宏樹, 2021a. 「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I・II・III」及び「宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年～2020 年の昆虫の記録—」の再検討(補遺及び訂正点・正誤表). きべりはむし, 44 (2) : 39-43.

宇野宏樹, 2021b. 兵庫県新温泉町におけるヒメシロシタバの記録. きべりはむし, 44 (2) : 52.

宇野宏樹, 2021c. 神戸市北区における 2021 年のキシタアツバの記録 1 例. きべりはむし, 44 (2) : 59.

宇野宏樹, 2022. 兵庫県宝塚市におけるエグレイチモジエダシャクの記録. 蛾類通信, 303 : 80.

宇野宏樹, 2024. 兵庫県におけるネグロシマメイガの近年の撮影記録. SPINDA, 36&37 : 116.

宇野宏樹・池田 大・阪上洗多, 2024a. 兵庫県産蛾類文献目録 2024. きべりはむし, 47(1) : 45-62.

宇野宏樹・池田 大・阪上洗多, 2024b. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html (2024 年 11 月閲覧).

八木 剛・中西明德・稲畑憲昭・杉野広一・植田義輔・勝又千寿代・木全俊明・古賀督尉・高島 昭・谷口登志夫・中濱春樹・福島秀毅・水野辰彦・森脇竹男・山崎敏雄・吉田 武, 2003. 砥峰高原の昆虫相-2002 年の昆虫調査から-(第一部). きべりはむし, 31(1) : 1-46.

矢口芽生, 2021. 兵庫県淡路市でアメリカピンクノメイガを確認. きべりはむし, 44(1) : 100.

山岸瑞樹, 2018. 西日本で稀なアカミャクノメイガ, エゾキイロキリガを採集. ゆらぎあ, 36 : 3-4.

山口福男, 1999. 諏訪山公園の蛾. きべりはむし, 27(2) : 37-41.

山本義丸, 1958. 兵庫県産氷上郡昆虫目録. NATURA, 特別号 氷上の自然第 3 集 : 134pp.

山本義丸, 1996. 兵庫県氷上郡地方の蛾類 (1). きべりはむし, 24(2) : 1-13.

山本義丸, 1997a. 兵庫県氷上郡地方の蛾類 (2). きべりはむし, 25(1) : 11-22.

山本義丸, 1997b. 兵庫県氷上郡地方の蛾類 (3). きべりはむし, 25(2) : 31-38.

安岡拓郎, 2022. 兵庫県におけるツシマキモンチラシ

の記録. きべりはむし, 45 (2) : 69.